

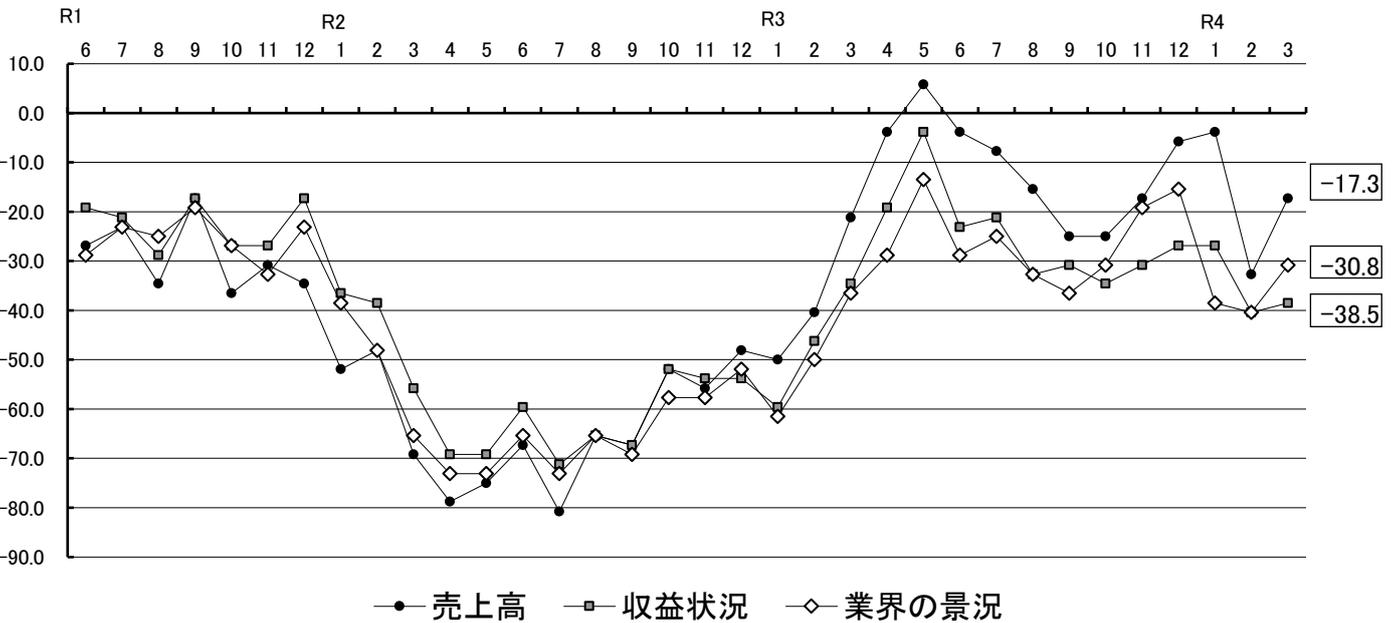
中小企業団体情報連絡員報告結果(令和4年3月分)

栃木県中小企業団体中央会

この報告結果は、栃木県中央会において設置している中小企業団体情報連絡員（中小企業組合（協同組合、商工組合等）の役職員52名に委嘱）による、所属組合の組合員企業の全体的な景況です。

- 主要3指標「売上高」「収益状況」「業界の景況」はすべて上昇した。
- 製造業で「繊維・同製品」「一般機器」、非製造業で「小売業（飲食業含む）」「サービス業」が特に厳しい。
- 感染拡大やウクライナ情勢の動向により仕入難、原材料高騰が懸念され、予断を許さない状況である。

県内主要3指標の推移(前年同月比DI値)



主要3項目	県内		全国	
	DI値	前月比	DI値	前月比
売上高	-17.3	+15.4	-13.1	+5.1
収益状況	-38.5	+1.9	-36.0	+0.9
業界の景況	-30.8	+9.6	-33.6	+3.3

売上高

当月の県内売上高DI値は、前月より15.4ポイント上昇し、-17.3ポイントとなった。全国においては、前月より5.1ポイント上昇し、-13.1ポイントとなった。

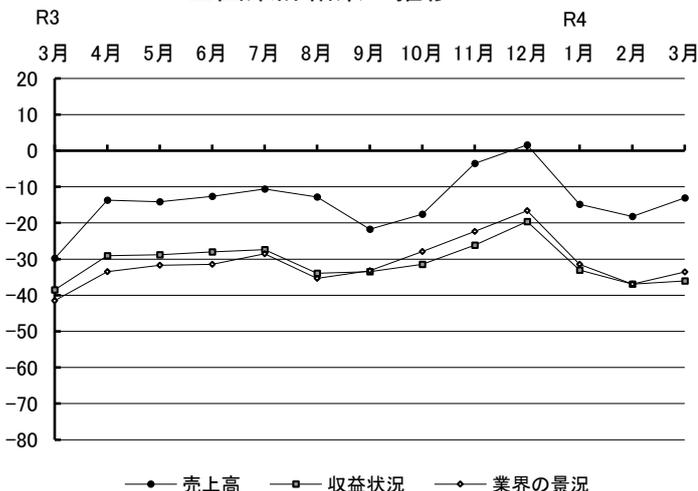
収益状況

当月の県内収益状況DI値は、前月より1.9ポイント上昇し、-38.5ポイントとなった。全国においては、前月より0.9ポイント上昇し、-36.0ポイントとなった。

業界の景況

当月の県内業界の景況DI値は、前月より9.6ポイント上昇し、-30.8ポイントとなった。全国においては、前月より3.3ポイント上昇し、-33.6ポイントとなった。

全国集計結果の推移



-概況-

3月の前年同月比DI値は、前月と比べ9指標中7指標が上昇した。主要3指標は「売上高」は15.4ポイント上昇、「収益状況」は1.9ポイント上昇、「業界の景況」が9.6ポイント上昇となった。

業種別・指標別にみると、製造業全体では「繊維・同製品」「一般機器」で「売上」が下降し厳しい。また、「木材・木製品」では、販売価格は材料価格の高騰を受け増加傾向にあるが、仕入価格の上昇を販売価格に転嫁ができていないとの報告やウッドショックの長期化による材料価格の更なる高騰を懸念している。「一般機器」においても、前年同月と比較し「売上高」が全体的に減少した企業が多く見受けられた。資材の高値安定や半導体不足等の影響も続いており、収益状況は厳しい。非製造業においては、やはり「小売業(飲食業含む)」「サービス業」で依然として厳しいマイナス状態が続いている。

当月は、全体的に微増傾向であったが各業界からは、原材料高騰に合わせて販売価格を上昇し収益が増加したとの声や一部企業では、価格転嫁ができず収益が悪化し厳しい状態が続いているなかで、人手不足や人件費の増加等の報告もあり、一概にも好転したとは言えない。引き続き、オミクロン株感染拡大とウクライナ情勢の動向により仕入難、材料価格と原油高騰が懸念され、予断を許さない状況である。

図表1 【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	-50.0	0.0	25.0	-25.0	-50.0	-25.0	0.0	0.0	-50.0
繊維・同製品	-75.0	-25.0	25.0	0.0	-50.0	-25.0	-25.0	-25.0	-25.0
木材・木製品	50.0	-50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-50.0
印刷	-100.0	0.0	-100.0	0.0	-100.0	0.0	0.0	-100.0	-100.0
窯業・土石	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	25.0	25.0	0.0
鉄鋼・金属	25.0	-25.0	50.0	0.0	-50.0	-25.0	-25.0	-25.0	-50.0
一般機器	-75.0	-25.0	25.0	-25.0	-75.0	-25.0	-50.0	0.0	-50.0
製造業	-16.0	-20.0	32.0	-8.0	-32.0	-16.0	-12.0	-8.0	-40.0
卸売業	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0		0.0	33.3
小売業	-71.4	-28.6	28.6	-28.6	-71.4	-28.6		0.0	-57.1
サービス業	-16.7		16.7	0.0	-83.3	-50.0		-16.7	-33.3
建設業	-20.0		0.0	0.0	-40.0	-20.0		0.0	0.0
運輸業	25.0		-25.0	0.0	0.0	-25.0		0.0	-25.0
その他	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
非製造業	-18.5	-20.0	11.1	-7.4	-44.4	-25.9		-3.7	-22.2
全体	-17.3	-20.0	21.2	-7.7	-38.5	-21.2	-12.0	-5.8	-30.8

図表2 【指標別DI値の推移】

	3年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	4年 1月	2月	3月	前月比
売上高	-21.2	-3.8	5.8	-3.8	-7.7	-15.4	-25.0	-25.0	-17.3	-5.8	-3.8	-32.7	-17.3	15.4
在庫数量	-11.4	-20.0	-17.1	-14.3	-20.0	-17.1	-25.7	-8.6	-8.6	-20.0	-5.7	-8.6	-20.0	-11.4
販売価格	-3.8	-3.8	3.8	-5.8	3.8	0.0	-3.8	3.8	5.8	11.5	9.6	15.4	21.2	5.8
取引条件	-11.5	-9.6	-9.6	-15.4	-11.5	-13.5	-17.3	-11.5	-17.3	-9.6	-5.8	-5.8	-7.7	-1.9
収益状況	-34.6	-19.2	-3.8	-23.1	-21.2	-32.7	-30.8	-34.6	-30.8	-26.9	-26.9	-40.4	-38.5	1.9
資金繰り	-19.2	-9.6	-13.5	-21.2	-15.4	-23.1	-23.1	-21.2	-15.4	-13.5	-15.4	-26.9	-21.2	5.8
設備操業度	-20.0	-12.0	12.0	0.0	4.0	0.0	0.0	-8.0	-16.0	-4.0	-8.0	-28.0	-12.0	16.0
雇用人員	-9.6	-11.5	-11.5	-11.5	-5.8	-7.7	-5.8	-15.4	-9.6	-7.7	-11.5	-11.5	-5.8	5.8
業界の景況	-36.5	-28.8	-13.5	-28.8	-25.0	-32.7	-36.5	-30.8	-19.2	-15.4	-38.5	-40.4	-30.8	9.6

特記事項

情報連絡員報告（令和4年3月分）

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
食料品	和洋菓子製造業	ロシア、ウクライナの影響が大きく原油の高騰や原材料高など収益悪化が見られる。
繊維工業	網・レース・繊維粗製品製造業	コロナ再拡大、原料値上げ、ウクライナ問題、円安等、不安要素だらけである。組合内でも受注内容は明るくなく、皆一様に先行きは不透明で不安な様子。
木材・木製品	一般製材業	昨今のウクライナ問題により、部材によっては若干の価格上昇が見られるが、包括的に勘案し現況においての影響は軽微と思われる。
	家具・建具製造業	売上高については増加先が増えているが、販売先の動向に左右され2極化しつつある。販売価格は材料価格の高騰を受け上昇傾向にあるが、販売価格転嫁できずに収益悪化につながる先が目立つ。一部には人手不足も発生しており、人材確保に苦慮している企業も出ている。ウッドショックの長期化、ウクライナ情勢等による材料価格の高騰が最大の懸念材料であり、先行きに不安感を募らせている。
	建具製造業	コロナ禍に、ロシアの愚行が重なり、ますます先行きが見えなくなった。具体的には、材料の高騰と入手難。
紙・紙加工品	集成材製造業	原材料の高騰が要因の為、収益につながらない。
印刷	印刷業	需要が減る中で材料（インキ、版など）が値上がりしており、紙も値上がりしている。今年中には再度値上がりが予測される。価格転嫁できるような環境づくりが必要と考える。
窯業・土石製品	石灰製造業	鉄鋼向けは、昨年並みの状況で推移している。 肥料関係、昨年同様の出荷となった。 建材関係は、碎石、土質ともに若干減少気味であった。 全体では、昨年同様の出荷となった。
	金属製品製造業	売上高は材料費が値上がりした分だけ販売価格も上昇したため増加した。
	金属製品製造業	自動車部品・機械設備・プレス金型関連ともに低下（主にコロナ禍による売上低下、人件費増加、人手不足）
鉄鋼・金属	金属製品製造業	半導体の不足、燃料費、原材料費の高騰に苦慮している。
	一般機器	令和4年3月の報告は前年同月と比較し、売上高が全体的に減少した企業が多くなってきている。仕入れ資材の状況も相変わらず高値が続き一部調達が困難な状況も引き続き見受けられます。操業度（稼働）はほぼ前年同様となっております。もちろん企業間格差がある。引き続き今後の新型コロナウイルスの感染状況、化石燃料の上昇懸念等があり、不安はあるものの今後の動向に注視していく。
その他の製造業	一般機械器具製造業	経済対策に舵を切ったため流れが変わりそうな気配になってきた。ただし、ロシア、ウクライナ情勢があらゆる方面に影響を及ぼしており非常に苦慮している。その為、全ての産業に停滞感が出てきた。
	化粧品卸売業	商材に若干の値上兆候が感じられる。原材料を欧州に依存している商材もあるため、ウクライナ情勢の影響により供給不安に陥る恐れもある。

卸売業	各種商品卸売業	一部業種を除き全体として売上高、業況等は前年同期に比べ好転となっている。各社とも仕入単価の上昇が今後懸念されている。
小売業	各種商品小売業	まん延防止等重点措置の解除等、飲食店の賑わいは戻らず人流は少し戻りつつある。買い物（物販）は一段と厳しさを増した。
	各種商品小売業	3月下旬にまん延防止等重点措置が解除されたが、全体としての客数は解除前後も変化はなかった。むしろ近隣では、コロナ感染者が増加に転じている地域もあり春休みに入っても客足は戻っていない状況である。
	花・植木小売業	例年3月は、桃の節句、卒業式、結婚式、お彼岸といった一年でもっとも花が使われる時期となるが、今年も前半はコロナウイルスの影響で多くのイベント等々が中止や延期になり、受注のキャンセルが相次ぎ仕入れ・売上ともに大きな影響を受けた。19日の週末3連休からは蔓延防止解除もあり、婚礼や年度末需要で洋花を中心に引き合いが強かった。また、彼岸も天候にも恵まれ仏花がよく売れた。市況はトータルで入荷量が前年比で5%ほど少なく、単価は10~15%高で推移した。
サービス業	理容業	コロナウイルスのオミクロン株感染者増加により、休業しなくてはならない店舗も出てきており、売上や資金繰りに影響している。また、顧客の来店頻度も間隔が長くなっていることも売上減少の理由となっているため、改善策を考えていきたい。
	旅館・ホテル	まん延防止措置が解除され徐々に宿泊者が戻ってきた。（宴会）新型コロナウイルス感染拡大により100%ダウン。（飲食店）まん延防止措置の解除により客足は少しずつ戻ってきたが、コロナ前と比べると足りない状況である。
	ビルメンテナンス業	宅配関連業務の売上高が横ばいの中、人件費が増加し、収益がやや悪化している。ビルメンテナンス関連のスポット業務も若干減少している。
建設業	総合工事業	ロシアのウクライナへの軍事侵攻によるロシアからの輸入が難しい状況、特に、木材については品薄状態で価格も上昇し影響が出てきている。
運輸業	貨物軽自動車運送業	配車が追い付かない日もあり、引っ越しも回復基調になりGWまで週末・祝日も予約が多数入ってきている。3月は新規のお客様よりも既存のお客様からの受注が多い。
	一般乗用旅客自動車運送業	まん延防止措置の解除後、夜間の人通りも増えお客様も若干多くなってきている。
その他の非製造業	大谷石採石業	碎石・加工事業者は、駅東口コンベンションホール建設工事で使用する大谷石供給が納期限を守りながらの作業で忙しい状況である。